

(様式第 10)

宮大医医第 209 号
平成 26 年 10 月 3 日

九州厚生局長 殿

宮崎大学医学部附属病院長
吉原 博幸 (印)

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
氏 名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には
法人の名称を記入すること。

2 名 称

宮崎大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地	電話(0985) 85-1510
-----------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 腎臓内科 3 消化器内科 4 血液内科 5 腫瘍内科 6 神経内科 7 感染症内科 8 呼吸器内科 9 内分泌内科 10 代謝内科 11 糖尿病内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に
ついて記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記
入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で
医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 乳腺外科 2 消化器外科 3 呼吸器外科 4 小児外科 5 心臓血管外科 6	
7 8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科
⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科
13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科口腔外科・矯正歯科 2 3 4 5 6	
7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リウマチ科 2 リハビリテーション科 3 病理診断科 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
36 床	床	床	床	596 床	632 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	219 人	212 人	387.9 人	看 護 補 助 者	59 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	4 人	14 人	18 人	理 学 療 法 士	12 人	臨床検査技師	44 人
薬 剤 師	24 人	4 人	28 人	作 業 療 法 士	6 人	衛生検査技師	2 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	11 人	そ の 他	0 人
助 産 師	29 人	3 人	31.2 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	500 人	107 人	592.1 人	臨床工学技士	8 人	医療社会事業従事者	7 人
准 看 護 師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	47 人
歯科衛生士	1 人	2 人	2.5 人	歯 科 技 工 士	1 人	事 務 職 員	68 人
管理栄養士	5 人	1 人	6 人	診療放射線技師	31 人	その他の職員	22 人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	69 人	眼 科 専 門 医	11 人
外 科 専 門 医	30 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精 神 科 専 門 医	5 人	放 射 線 科 専 門 医	14 人
小 児 科 専 門 医	13 人	脳神経外科専門医	12 人
皮 膚 科 専 門 医	7 人	整形外科専門医	23 人
泌尿器科専門医	10 人	麻 酔 科 専 門 医	29 人
産婦人科専門医	15 人	救 急 科 専 門 医	8 人
		合 計	257 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	520.1 人	12.5 人	532.6 人
1 日当たり平均外来患者数	951 人	59.5 人	1010.5 人
1 日当たり平均調剤数			1995.7 剤
必要医師数			112.6 人
必要歯科医師数			9.6 人
必要薬剤師数			17.8 人
必要(准)看護師数			303 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	365m ²	鉄筋コンクリート	病床数 16 床
			心電計 (有)・無
			心細動除去装置 (有)・無
			ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4 m ²		病床数 16 床
	[移動式の場合] 台数 台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49 m ²		
	[共用室の場合] 共用する室名 薬剤管理指導室		
化学検査室	334m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) (主な設備) 検体前処理装置、生化学自動分析装置 (C8000,C16000,200FR)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動タンパク分画測定装置
細菌検査室	87.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置
病理検査室	68.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 組織・細胞診自動染色装置、免疫自動染色装置、ドラフト装置、サイトスピン、Thinprep、自動封入器、パラフィンブロック包埋装置、FISH装置、遠心器、セーフティキャビネット、ミクロトーム、恒温器、伸展器、温浴器、
病理解剖室	52.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、ホルマリン希釈装置、ホルマリン排気バケツBOX、セーフティラック、オートクレーブ、解剖用骨切断鋸装置、体重計、パソコン (CUMNAVI用)
研究室	2417.3m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、書庫
講義室	553m ²	鉄筋コンクリート	室数 2 室 収容定員 475 人
図書室	787 m ²	鉄筋コンクリート	室数 6 室 蔵書数 124,345 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成 25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率		77.0 %	逆紹介率 54.1 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		10155 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8310 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1679 人
	D: 初診の患者の数		15363 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
末梢血単核球移植による血管再生治療	2人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	4人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的FRC法による骨髓微小残存病変(MRD)量の測定	0人
硬膜外自家血注入療法	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	慢性閉塞性肺疾患の運動耐容能改善効果の評価	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性呼吸不全を来した患者を対象にペプチドホルモングレリンを3週間にわたって点滴静注し(1日2回投与)、運動耐容能の改善、食欲、体重増加を評価する。			
医療技術名	慢性下気道感染症に対するグレリン投与	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性下気道感染症のため体重減少を来し、喀痰の多い患者を対象にペプチドホルモングレリンを2週間にわたってし、(1日2回投与)プラセボ投与群と比較して、喀痰量の減少、体重の増加を評価する			
医療技術名	膵石症に対する体外衝撃波結石破碎療法(ESWL)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 膵石に対する体外衝撃波結石破碎療法は、体外衝撃波結石破碎装置を用いて体外からの衝撃波で膵管内膵石粉碎化の後に消失させる悲観血的な治療法である。衝撃波は、硬いが脆い膵石を効率よく結晶細片に粉碎することである。本治療法は、低侵襲で安全性が高く、結石破碎効果および症状緩和効果が高く、膵石症に対する有効な一つである。			
医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋療法を行っている。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 尋常性痤瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	皮膚悪性リンパ腫へのACNU外用療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 皮膚悪性リンパ腫の皮膚病変に対し、抗癌剤であるACNUの外用療法を行っている。			
医療技術名	酒查皮に対する色素レーザー療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 酒查皮に対し、レーザー療法を行う。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	埋め込み型骨導補聴器(BAHA)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 混合難聴者及び片側聾患者に対し、BAHAによる聴力補償を行った。			
医療技術名	中耳真珠腫に対する前鼓室開放術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 中耳真珠腫の術後再発予防策としての追加術式。			

医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	97人	・膿疱性乾癬	18人
・多発性硬化症	51人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	75人	・原発性胆汁性肝硬変	40人
・全身性エリテマトーデス	341人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	94人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	43人
・サルコイドーシス	89人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	30人	・特発性間質性肺炎	25人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	175人	・網膜色素変性症	36人
・特発性血小板減少性紫斑病	34人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	51人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	318人	・神経線維腫症	25人
・大動脈炎症候群	23人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	22人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10人
・脊髄小脳変性症	40人	・ライソゾーム病	7人
・クローン病	239人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	6人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	122人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	17人
・後縦靱帯骨化症	91人	・肥大型心筋症	20人
・ハンチントン病	5人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	46人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェゲナー肉芽腫症	16人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	46人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	4人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	42人	・黄色靱帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	201人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・地域歯科診療支援病院入院加算
・特定機能病院入院基本料(一般7:1)	・救命救急入院料1
・特定機能病院入院基本料(精神13:1)及び重度認知症加算	・特定集中治療室管理料2(広範囲熱傷加算及び小児加算)
・臨床研修病院入院診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)
・救急医療管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(新生児集中治療室管理料)
・診療録管理体制加算2	・緩和ケア診療加算
・急性期看護補助体制加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1及び感染防止対策地域加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・病棟薬剤業務実施加算	・
・データ提出加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・がん患者カウンセリング料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・外来放射線照射診療料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ニコチン依存症管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)(Ⅱ)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・がん治療連携計画策定料	・外来化学療法加算1
・がん治療連携管理料	・無菌製剤処理料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・薬剤管理指導料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・医療機器安全管理料1	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・医療機器安全管理料2	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・医療機器安全管理料(歯科)	・医療保護入院等診療料
・歯科治療総合医療管理料	・透析液水質確保加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・一酸化窒素吸入療法
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ)	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・歯科技工加算
・遺伝カウンセリング加算	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・植込型心電図検査	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・時間内歩行試験	・人工内耳植込術
・胎児心エコー法	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・ヘッドアップティルト試験	・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2
・皮下連続式グルコース測定	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・補聴器適合検査	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・ロービジョン検査判断料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・コンタクトレンズ検査料1	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・経皮的動脈遮断術	・輸血管理料Ⅰ
・ダメージコントロール手術	・歯周組織再生誘導手術
・体外衝撃波胆石破碎術	・手術時歯根面レーザー応用加算
・腹腔鏡下肝切除術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・生体腎移植術	・放射線治療専任加算
・膀胱水圧拡張術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・高エネルギー放射線治療
・強度変調放射線治療(IMRT)	・画像診断管理加算1
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・画像診断管理加算2
・体外照射呼吸性移動対策加算	・冠動脈CT撮影加算
・直線加速器による放射線治療	・外傷全身CT加算
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・心臓MRI撮影加算
・病理診断管理加算1	・検体検査管理加算(Ⅱ)
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・持続血糖測定器加算
・歯科矯正診断料	・経皮的冠動脈形成術
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨動補聴器交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・網膜再建術
・神経学的検査	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・体外衝撃波腓石破碎術	・CAD/CAM冠
・自家培養軟骨(K059.14.030点)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・輸血適正使用加算	・外来緩和ケア管理料
・	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・	・歯科診療特別対応連携加算
・	・新生児特定集中治療室管理料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・エキシマレーザー冠動脈形成術	・
・超音波骨折治療法	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	・
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検症例検討会(CPC) 24回(院内死亡症例のCPC開催数) 骨髄カンファレンス:週1回、神経放射線・病理カンファレンス:2週に1回、泌尿器病理カンファレンス:2週に1回、婦人科病理カンファレンス:週1回、胎盤肉眼観察会:週1回 HTLV-1カンファレンス:月に1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 31 例 / 剖検率 11.7%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肥満におけるエネルギー代謝調節ペプチドの病態生理学的意義の解析	中里 雅光	第三内科	17,160,000	補助委 科学研究費補助金(文部科学省)
腹部大動脈瘤におけるアドレノメデュリン・マスト細胞の意義と新たな治療法の開発	北村 和雄	第一内科	3,640,000	補助委 科学研究費補助金(文部科学省)
HDAC分子標的エピジェネティクスPET診断の基礎及び臨床的応用	西井 龍一	放射線科	3,770,000	補助委 科学研究費補助金(文部科学省)
HDAC分子標的エピジェネティクスPET診断の基礎及び臨床的応用	西井 龍一	放射線科	2,200,000	補助委 科学研究費補助金(文部科学省)
蛋白質同化を介して抗加齢に機能するグレリンの発現に及ぼす加齢と運動の影響	十枝内 厚次	第三内科	1,820,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
グレリン併用運動療法の多面的抗生活習慣病作用に関する研究	上野 浩晶	第三内科	1,560,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
医療ミスを経験させる知識シミュレーションのナレッジマネジメント研究	山崎 友義	医療情報部	1,820,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
腹部大動脈瘤の病態解明と細胞内エネルギー制御による内科的治療法の基礎確立	鶴田 敏博	第一内科	1,300,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
閉塞性動脈硬化症に対する単核球移植とアドレノメデュリン併用療法	北 俊弘	第一内科	650,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
新規ペプチドNERPおよび新規グラニン由来ペプチドのインスリン分泌調節機能の探索	山口 秀樹	第三内科	1,430,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
原発性骨髄線維症におけるHOXB4の機能同定と、USFを標的とする治療法の開発	下田 和哉	第二内科	1,430,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
膵臓癌における癌関連遺伝子発現とFDG集積との関連に関する研究	長町 茂樹	放射線科	780,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
3T MRIを用いた臓器画像診断の最適化に関する基礎的・臨床的検討	小玉 隆男	放射線科	780,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
動物モデルを用いた静脈血栓症の診断と治療	田村 正三	放射線科	1,170,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
骨・軟骨に異常をきたす疾患モデルマウスライブラリーの構築	関本 朝久	整形外科	780,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
プレスチン蛋白の膜発現様式と外有毛細胞機能との関係	松田 圭二	耳鼻咽喉科	1,560,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
網膜変性症の原因の解明	直井 信久	眼科	1,170,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
神経障害痛に対する間欠的高周波照射の作用メカニズムに関する研究	田中 信彦	麻酔科	2,340,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
上皮間葉転換早期相を焦点とする急性肺損傷発症機構の解明と新規治療法の探索	柳 重久	第三内科	1,820,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
骨髄増殖性腫瘍における病型の進展と急性転化メカニズムの解明	北中 明	第二内科	1,820,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳内ドバミン神経系における転写調節因子の機能解析を目的とした行動薬理学的研究	石田 康	精神科	1,690,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
分子標的を応用した新たな静脈血栓症治療	古小路 英二	放射線科	1,170,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
明らかな骨量減少をきたすLima1/EPLIN遺伝子欠損マウスの機能解析	船元 太郎	救命救急センター	1,430,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
オレキシン受容体の機能解析-麻酔との関連-	白阪 哲朗	麻酔科	650,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
ヒト血管の反応性;正常反応から病態変化に関する研究	恒吉 勇男	麻酔科	520,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
進行性前立腺癌における新しい治療ターゲットの探索	賀本 敏行	泌尿器科	2,080,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
発達期の副交感神経活動性と低酸素血症性脳障害の重症度に関する基礎的研究	鮫島 浩	産婦人科	1,820,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
迷走神経刺激による周産期脳障害の予防の試み	古川 誠志	産婦人科	1,820,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
片側人工内耳例に対するセカンドインプラントの効果推定検査:ボジトロン断層法の応用	東野 哲也	耳鼻咽喉科	1,170,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
MEL1/PRDM16による骨分化制御機構の解明	井川 加織	歯科口腔外科・矯正歯科	1,560,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
外科的矯正治療は上部消化管、自律神経、内分泌機能の改善に役立つのか?	吉田 真穂	歯科口腔外科・矯正歯科	1,690,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
神経・摂食関連ペプチドが消化管運動と睡眠時ブラキシズムの発現と抑制に及ぼす影響	永田 順子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,950,000	補助委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
静脈血栓塞栓症におけるフォンウィルブランド因子とADAMTS-13の役割	盛口 清香	病理診断科	2,340,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
アドレノメデュリンの炎症性腸疾患治療薬としての実用化へ向けた基礎研究	芦塚 伸也	第一内科	2,080,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
重症免疫不全マウスを用いたHTLV-1欠損プロウイルス生成メカニズムの解明	上野 史朗	検査部	1,950,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
成人T細胞白血病・リンパ腫患者における免疫反応パターンの解析	室井 栄治	皮膚科	2,340,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
周術期関連薬剤によるインスリン抵抗性発現機序の解明	与那覇 哲	手術部	2,210,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
グルコース感受性蛍光指示薬を用いた麻酔薬の神経細胞内グルコースへの影響の検証	田村 隆二	麻酔科	910,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳の老化制御機構の解明	田口 明子	第三内科	1,560,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
義足歩行・動作のメカニズムの解明と臨床応用	鳥取部 光司	整形外科	2,080,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
急性肺損傷に対するグレリンの肺保護作用機構の解析と臨床応用	中里 雅光	第三内科	1,560,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
褐色細胞組織に存在する新規生理活性ペプチドの系統的探索	北村 和雄	第一内科	1,040,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳老化と神経変性疾患発症の分子機構の解明	田口 明子	第三内科	5,850,000	補委 科学研究費補助金(文部科学省)
脳老化と神経変性疾患発症の分子機構の解明	田口 明子	第三内科	1,000,000	補委 科学研究費補助金(文部科学省)
上皮組織における細胞膜上プロテアーゼ制御機構の破綻が引き起こす病態の解析	片岡 寛章	病理診断科	4,420,000	補委 科学研究費補助金＋学術研究助成基金助成金(文部科学省)
中枢性摂食異常症に関する研究	中里 雅光	第三内科	900,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
運動器疾患の評価と要介護予防のための指標開発および効果的介入方法に関する調査研究	帖佐 悦男	整形外科	2,200,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	布井 博幸	小児科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
スマートフォンを用いる臨床医療のナレッジマネジメント	山崎 友義	医療情報部	1,690,000	補委 科学研究費補助金＋学術研究助成基金助成金(文部科学省)
遺伝性難聴および外耳、中耳、内耳奇形に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻咽喉科	1,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
間脳下垂体障害に関する調査研究	中里 雅光	第三内科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
新しい人工内耳(EAS)に関する基礎的、臨床的研究	東野 哲也	耳鼻咽喉科	700,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
看護師等の高度な臨床実践能力の評価及び向上に関する研究	池ノ上 克	産婦人科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
基幹・再発腫瘍に対する新規エピトープペプチドカクテル療法と標準化学療法との併用効果を検討する多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	千々岩 一男	第一外科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	竹島 秀雄	脳神経外科	500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
新規アミノ酸ポジットロン製剤を用いたテラメーラド分子標的診断法の開発	西井 龍一	放射線科	260,000	補委 科学研究費補助金(文部科学省)
HTLV-1母子感染予防に関する研究-HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	池ノ上 克	産婦人科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
難治性血管炎に関する調査研究	藤元 昭一	第一内科	1,950,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
leA抗原新規バイオマーカーを用いた血尿の2次スクリーニングの試み	藤元 昭一	第一内科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
人工妊娠中絶、妊産婦死亡の地域格差に関する研究	池ノ上 克	産婦人科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
特定健康診査による個人リスク評価に基づく、保健指導と連結した効果的な慢性腎臓病(CKD)地域医療システムの制度設計	藤元 昭一	第一内科	700,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	天野 正宏	皮膚科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
骨髄系腫瘍における造血幹細胞腫瘍化メカニズムの解明、および新規治療標的分子の探索	幣 光太郎	第二内科	1,430,000	補委 科学研究費補助金(文部科学省)
スマートフォンを用いる臨床医療のナレッジマネジメント	荒木 賢二	医療情報部	195,000	補委 科学研究費補助金＋学術研究助成基金助成金(文部科学省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高度医療 残存聴力活用型人工内耳挿入術の適応症および有効性、安全性に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
新規摂食・エネルギー代謝調節ペプチドの網羅的探索と機能解析	中里 雅光	第三内科	7,670,000	補委 科学研究費補助金+学術研究助成基金助成金(文部科学省)
動物接種とゲノム解析の組み合わせによる周期的な難同定病原微生物診断法の開発	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	2,860,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
Mfsd2遺伝子ノックアウトマウスにおけるエネルギー代謝特性の解明	澤田 浩武	小児科	2,080,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
家族性急性リンパ性白血病の原因遺伝子の探索	盛武 浩	小児科	2,470,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
CD28細胞内シグナル活性化によるボドサイト傷害機序の解明	此元 隆雄	小児科	1,430,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
視覚性記憶に係わる嗅覚皮質ニューロン内カルシウムイオン依存性情報伝達経路の役割	安部 博史	精神科	1,300,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
神経幹細胞、神経膠芽腫幹細胞における転写因子Evi1の機能解明	横上 聖貴	脳神経外科	2,860,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
円板状半月が歩行におよぼす影響についての研究	山口 奈美	整形外科	1,040,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
腹性増殖性糸球体腎炎における補体B因子の関与の解析	今村 秀明	小児科	910,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
敗血症性ショック治療薬としてのトロンボモデュリンの効果	矢野 武志	麻酔科	2,080,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
エナメル上皮腫におけるTTSPとHAI-1の機能解析	馬場 貴	歯科口腔外科・矯正歯科	2,730,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
癌医療におけるグレルリンの包括的QOL改善療法の開発研究	中里 雅光	第三内科	30,400,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
新しい難聴遺伝子診断システムの開発および臨床応用に関する研究	東野 哲也	耳鼻咽喉科	500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
精神神経疾患の個体差を克服する個別化薬物療法に有用な分子標的放射性診断薬の開発	石田 康	精神科	390,000	補委 科学研究費補助金+学術研究助成基金助成金(文部科学省)
日本人の人工置換術後における抗血小板療法の有効性及び安全性に関する臨床研究	中村 郁英	第二外科	195,000	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究	布井 博幸	小児科	2,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
人工骨補填材を用いた生体内での血管病付着組織再生に関する実験的研究	山下 善弘	歯科口腔外科・矯正歯科	237,830	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
加齢依存性変形関節症に関わる新規クロマチン蛋白	谷口 昇	救命救急センター	1,990,078	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
HTLV-1関連希少難治性疾患における臨床研究の全国展開と基盤整備	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	20,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
難治性潰瘍性大腸炎を対象とした医師主導治験のためのアドレノメデュリン製剤の作成	北村 和雄	第一内科	141,800,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
大腸癌術後病変の画期的な存在・質的診断方法の開発	原田 拓	がん診療部	1,629,550	補委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
新規生理活性ペプチドの機能解析による創薬シーズとしての可能性の検討	十枝内 厚次	第三内科	1,105,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
宮崎市清武町域における皮膚がんの研究	加嶋 亜紀	皮膚科	720,000	補委 宮崎市
早期診断マルチバイオマーカー開発	中里 雅光	第三内科	22,000,000	補委 文部科学省研究振興局長
食食農連携による日向夏搾汁残渣を用いた骨代謝改善素材、飲料実用化開発	山口 昌俊	産婦人科	9,299,000	補委 農林水産技術会議事務局長
消化管ペプチドと循環器との機能関連に関する研究	北村 和雄	第一内科	1,500,000	補委 独立行政法人国立循環器研究センター
国際共同治験に基づく小児難治性難病に対する遺伝子・細胞治療の実施とその支援体制の整備	布井 博幸	小児科	1,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	鮫島 浩	産婦人科	1,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)

小計 29

計 93

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Sayaka Nagata	第一内科	Big angiotensin-25: A novel glycosylated angiotensin-related peptide isolated from human urine.	Biochemical and Biophysical Research Communications 441(4):757-62 2013
2	Kensaku Nishihira	第一内科	Organized thrombus in aspirated coronary materials can predict in-hospital mortality of patients with acute myocardial infarction.	Circulation Journal 77(5):1275-80 2013
3	Hiroshi Komura	第一内科	Gender difference in relationship between body mass index and development of chronic kidney disease.	BMC Research Notes 13; 6: 463 2013
4	Shinya Ashizuka	第一内科	Adrenomedullin as a potential therapeutic agent for inflammatory bowel disease.	Current Protein and Peptide Science 14(4): 246-255 2013
5	Joji Kato	第一内科	Obesity paradox in peripheral vascular disease.	Atherosclerosis 229(2):509-10 2013
6	Kenji Kuwasako	第一内科	Functions of third extracellular loop and helix 8 of family B GPCRs complexed with RAMPs and characteristics of their receptor trafficking.	Current Protein & Peptide Science 14(5):416-428 2013
7	Hiroyuki Komatsu	第一内科	Long-term survival of patients with IgA nephropathy after dialysis therapy	Kidney and Blood Pressure Research 37(6): 649-655 2013
8	Yuji Sato	第一内科・血液浄化療法部	U-shaped association between body mass index and proteinuria in a large Japanese general population sample.	Clinical and Experimental Nephrology 18(1):75-86 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
9	Shojiro Yamamoto	第二内科	Gastrointestinal Bleeding in Acute Myeloid Leukemia Patients Receiving Intensive Induction Chemotherapy	JSM Gastroenterology and Hepatology 2(3):1019 2014
10	Nobuhiro Matsumoto	第三内科	A possible role of galectin-9 in the pulmonary fibrosis of patients with interstitial pneumonia.	Lung 191(2):191-198 2013
11	Akihiro Sakamoto	第三内科	Massive subcutaneous emphysema and pneumomediastinum following endotracheal intubation.	Internal Medicine 52(15):1759 2013
12	Tsubouchi Hironobu	第三内科	Rikkunshito ameliorates bleomycin-induced acute lung injury in a ghrelin-independent manner.	American journal of Physiology. Lung Cellular Molecular Physiology 306:L233-245 2014
13	Nobuyuki Ishii	第三内科	Severe Orthostatic Hypotension due to Unilateral Carotid Artery Dissection.	Neurol Int 6(2): 5352 2014
14	Nobuyuki Ishii	第三内科	A case of simultaneous neuromyelitis optica spectrum disorder and subacute combined degeneration	Neurological Sciences 34 (10): 1819-1821 2013
15	Kunihiko Umekita	膠原病・感染症内科	Use of anti-tumor necrosis factor biologics in the treatment of rheumatoid arthritis does not change human T-lymphotropic virus type 1 markers: a case series.	Modern Rheumatology doi:10.3109/14397595.2013.844389 (online on November 4) 2013
16	Ryoei Miyoshi	精神科	Weight control in schizophrenic patients through Sakata's Charting of Daily Weight Pattern and its associations with temperament and character.	Asian Journal of Psychiatry 7(1): 52-57 2014
17	Aki Kuramashi	精神科	Effect of blonanserin on methamphetamine-induced disruption of latent inhibition and c-Fos expression in rats.	Neuroscience Letters 549: 97-102 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
18	Hideaki Imamura	小児科	Successful living-related kidney transplantation in a boy with inherited dysfibrinogenemia.	Pediatric Transplantation 17(7):161-164 2013
19	Takao Konomoto	小児科	Nephrotic syndrome complicated by idiopathic central diabetes insipidus.	Pediatr Nephrol doi: 10.1007/s00467- 013-2728-9 (online on Jan 10) 2014
20	Masahide Hiyoshi	第一外科	Usefulness of Drain Amylase, Serum C-reactive Protein Levels and Body Temperature to Predict Postoperative Pancreatic Fistula after Pancreaticoduodenectomy.	World Journal of Surgery 37(10):2436-2442 2013
21	Mikio Kanemaru	第一外科	Antiproliferative effect of $1\alpha,25$ -dihydroxyvitamin D3 involves upregulation of cyclin-dependent kinase inhibitor p21 in human pancreatic cancer cells	Hepato-Gastroenterology 60(125):1199-1205 2013
22	Kunihide Nakamura	第二外科	Predictors of early and late outcome after total arch replacement for atherosclerotic aortic arch aneurysm	General Thoracic Cardiovascular Surgery 62(1):31-37 2013
23	Takanori Ayabe	第二外科	Adjuvant Chemotherapy of Gemcitabine plus Carboplatin versus Paclitaxel plus Carboplatin in Patients with Resected Non-Small Lung Cancer	Journal of Cancer Therapy 4(8):15-23 2013
24	Masaki Tomita	第二外科	Is There a Relationship Between Serum Carcinoembryonic Antigen Level and Epidermal Growth Factor Receptor Mutations in Resected Lung Adenocarcinomas?	Annals of Cancer Research and Therapy 21(1):31-35 2013
25	Hiroyuki Nagahama	第二外科	Inflammatory Abdominal Aortic Aneurysm:Report of Seven Cases	Annals of Vascular Diseases 6(4):756-758 2013
26	Tomohisa Sekimoto	整形外科	Segmental Copy Number Loss in the Region of Semaphorin 4D Gene in Patients with Acetabular Dysplasia.	Journal of Orthopaedic Research 31(6):957-961 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
27	Yasuyuki Ishida	整形外科	Pseudoaneurysm as a complication of shoulder arthroscopy.	Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy DOI 10.1007/s00167-014-2956-y (online on Mar 26) 2014
28	Hiroshi Kuroki	整形外科	Two siblings with neuropathic scoliosis caused by Chiari malformation type I with syringomyelia	Journal of Orthopaedic Science DOI 10.1007/s00776-013-0520-0 (online on Jan 1) 2014
29	Satoru Sugie	泌尿器科	Cyclooxygenase 2 Genotypes Influence Progression of Prostate Cancer Susceptibility in Japanese Men.	Tumor Biology 35(3): 2717-2721 2014
30	Satoru Sugie	泌尿器科	Increased Plasma Caveolin-1 Levels Are Associated with Progression of Prostate Cancer among Japanese Men.	Anticancer Research 33(5): 1893-1897. 2013
31	Hironobu Wakeda	泌尿器科	Superior vena cava syndrome due to metastasis from urothelial cancer: A case report and literature review.	Urology Annals 5(4): 291-293 2013
32	Hideki Chuman	眼科	Vasodilatory effects of antivascular endothelium growth factor (VEGF) antibody, corticosteroid, and nitric oxide on the posterior ciliary arteries.	Japanese Journal of Ophthalmology 57(3): 320-326 2013
33	Tomoyuki Maekubo	眼科	Evaluation of inner retinal thickness around the optic disc using optical coherence tomography of a rodent model of nonarteritic ischemic optic neuropathy.	Japanese Journal of Ophthalmology 57(3): 327-332 2013
34	Tomoyuki Maekubo	眼科	Laser speckle flowgraphy for differentiating between nonarteritic ischemic optic neuropathy and anterior optic neuritis.	Japanese Journal of Ophthalmology 57(4): 385-390 2013
35	Hideki Chuman	眼科	Effects of L-arginine on anatomical and electrophysiological deterioration of the eye in a rodent model of nonarteritic ischemic optic neuropathy.	Japanese Journal of Ophthalmology 57(4): 402-409 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
36	Takako Osako	眼科	Effects of steroid administration and transcorneal electrical stimulation on the anatomic and electrophysiologic deterioration of nonarteritic ischemic optic neuropathy in a rodent model.	Japanese Journal of Ophthalmology 57(4): 410-415 2013
37	Takumi Okuda	耳鼻咽喉科	Glucose metabolism in the primary auditory cortex of postlingually deaf patients: an FDG-PET study.	ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec. 75(6): 342-349 2013 (Issue release date: February 2014)
38	Masatoki Kaneko	産婦人科	Maternal IgG avidity, IgM and ultrasound abnormalities: combined method to detect congenital cytomegalovirus infection with sequelae	Journal of Perinatology. 33(11): 831-835 2013
39	Masanao Oohashi	産婦人科	Prospective study of the MD-twin score for antepartum evaluation of monochorionic diamniotic twins and its correlation with perinatal outcomes	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 40(3): 711-717 2014
40	Masatoshi Yamaguchi	産婦人科	Genetic diagnosis and genetic counseling for androgen-insensitivity syndrome: A report of three cases	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 40(3): 723-727 2014
41	Youhei Maki	産婦人科	Independent uterine contractions in simultaneous twin pregnancy in each horn or the uterus didelphys	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 40(3): 836-839 2014
42	Harishkumar Madhyastha	産婦人科	Revealing the Mechanism of In Vitro Wound Healing Properties of Citrus tamurana Extract.	Biomed Research International DOI 10.1155/2013/963457 (online on May 2) 2013
43	Akira Nakajima	産婦人科	Abilities of antioxidants to eliminate the peroxy radical derived from 2,2#-Azobis (2-Amidinopropane) dihydrochloride(AAPH)	Applied Magnetic Resonance. 44(9): 997-1005 2013
44	Akira Nakajima	産婦人科	Evaluation of the antioxidant abilities of water soluble biosubstances using the ORAC-ESR assay in combination with the hydroxyl and superoxide radical-eliminating abilities.	Applied Magnetic Resonance. 44(12): 1419-1430 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
45	Rumi Naono-Nakayama	産婦人科	An amino-terminal fragment of hemokinin-1 has an inhibitory effect on pruritic processing in rats.	Neuroscience. 259: 172-183 2014 (Feb 14)
46	Ryuichi Nishii	放射線科	Diagnostic usefulness of an amino acid tracer, α -[N-methyl-(11)C]-methylaminoisobutyric acid ((11)C-MeAIB), in the PET diagnosis of chest malignancies.	Annals of Nuclear Medicine 27(9): 808-821 2013
47	Shigeki Nagamachi	放射線科	The usefulness of (18)F-FDG PET/MRI fusion image in diagnosing pancreatic tumor: comparison with (18)F-FDG PET/CT.	Annals of Nuclear Medicine 27(6): 554-563 2013
48	Hiroshi Nakada	放射線科	A synthetic tryptophan metabolite reduces hemorrhagic area and inflammation after pulmonary radiofrequency ablation in rabbit nonneoplastic lungs.	Japanese Journal of Radiology 32(3): 145-154 2014
49	Tetsuro Shirasaka	麻酔科	High-dose remifentanyl increases blood pressure and heart rate mediated by sympatho-activation in conscious rats.	Journal of Anesthesia 27(3): 325-332 2013
50	Takeshi Yano	麻酔科	Dimethylsulfoxide potentiates the nerve conduction-blocking effect of lidocaine without augmentation of the intracellular lidocaine concentration in the giant axon of crayfish in vitro.	Fundamental and Clinical Pharmacology. 27(4): 402-8 2013
51	Ryuji Tamura	麻酔科	Up-regulation of NaV1.7 sodium channels expression by tumor necrosis factor- α in cultured bovine adrenal chromaffin cells and rat dorsal root ganglion neurons.	Anesthesia and Analgesia 118(2): 318-24 2014
52	Takeya Niibo	脳神経外科	Arterial spin-labeled perfusion imaging to predict mismatch in acute ischemic stroke.	Stroke. 44(9): 2601-2603 2013
53	Kiyotaka Yokogami	脳神経外科	Hypoxia-induced decreases in SOCS3 increase STAT3 activation and upregulate VEGF gene expression.	Brain Tumor Pathology 30(3): 135-143 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
54	Hideo Takeshima	脳神経外科	Expression of NDRG2 sensitizes glioblastoma cell to temozolomide via Akt inactivation.	Neuro-Oncology 15: Supplement 3, iii27-28 2013
55	Izumi Yoshioka	歯科口腔外科・矯正歯科	Criteria and limitations for selecting a sagittal split ramus osteotomy for patients with skeletal mandibular prognathism and open bite	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology. 115(4): 455-465 2013
56	Izumi Yoshioka	歯科口腔外科・矯正歯科	Risk factors for breakage of biodegradable plate systems after bilateral sagittal split mandibular setback surgery.	British Journal of Oral & Maxillofacial Surgery 51(4): 307-311. 2013
57	Kaori Igawa	歯科口腔外科・矯正歯科	Relationships between occlusal force and morphology using the feature elements of occlusal indices	Journal of Japan Association of Dental Traumatology 9(1): 23-28 2013
58	Shinri Hoshiko	病理診断科	Hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 (Hai-1/Spint1) is a suppressor of intestinal tumorigenesis.	Cancer Research 73(8): 2659-2670. 2013
59	Takashi Iwakiri	病理診断科	Validation of a newly proposed histopathological classification in Japanese patients with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis.	BMC Nephrology 14(1):125 DOI 10.1186/1471- 2369-14-125 (online on Jan 14) 2013
60	Chie Sugita	病理診断科	Elevated plasma factor VIII enhances venous thrombus formation in rabbits: contribution of factor XI, von Willebrand factor and tissue factor.	Thrombosis and Haemostasis 110(1): 62-75 2013
61	Atsushi Yamashita	病理診断科	Arterial (18)F-fluorodeoxyglucose uptake reflects balloon catheter-induced thrombus formation and tissue factor expression via nuclear factor- κ B in rabbit atherosclerotic lesions.	Circulation Journal 77(10): 2626-35. 2013
62	Atsushi Yamashita	病理診断科	Increased metabolite levels of glycolysis and pentose phosphate pathway in rabbit atherosclerotic arteries and hypoxic macrophage.	PLoS One e86426. DOI 10.1371 (online on Jan 13) 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
63	Jingjia Ye	病理診断科	Loss of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 participates in metastatic spreading of human pancreatic cancer cells in a mouse orthotopic transplantation model.	Cancer Science 105(1): 44-51 2014
64	Takashi Iwakiri	病理診断科	Association between renal vasculature changes and generalized atherosclerosis: An autopsy survey.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 21(2): 99-107 2014
65	Mayumi Akaki	病理診断科	Duodenal mucosal damage is associated with proliferative activity of Brunner's gland hamartoma: a case report.	BMC Gastroenterology 14:14 DOI 10.1186/1471-230X-14-14 (online on Jan 14) 2014
66	Naoki Sameshima	病理診断科	The values of wall shear stress, turbulence kinetic energy and blood pressure gradient are associated with atherosclerotic plaque erosion in rabbits.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis DOI org/10.5551/jat.23093 (online on Mar 25) 2014
67	Akinobu Ohno	病理部	Aberrant expression of monocarboxylate transporter 4 in tumour cells predicts an unfavourable outcome in patients with hepatocellular carcinoma.	Liver international DOI: 10.1111/liv.12466 (online on Feb 7) 2014
68	Toyoaki Maruta	集中治療部	Effects of intravenous low-dose recombinant human atrial natriuretic peptide on renal function in the perioperative management for gastrointestinal perforation or ileus: A retrospective single-center study.	Journal of critical care 28(2): 133-140 2013
69	Seishi Furukawa	総合周産期母子医療センター	Activation of acetylcholine receptors and microglia in hypoxic-ischemic brain damage in newborn rats.	Brain & Development. 35(7): 607-613 2013
70	Yuki Kodama	総合周産期母子医療センター	Impact of new gestational diabetes mellitus criteria on stillbirth: A regional population-based study in Japan.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 39(7): 1242-1245 2013
71	Seishi Furukawa	総合周産期母子医療センター	The impact of cesarean section on neonatal outcome of infants born at 23 weeks of gestation.	Early Human Development. 90(3): 113-118 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
----	-------	--------	----	-----

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 手順書の主な内容 宮崎大学医の倫理委員会指針	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 規定の主な内容 目的、用語の定義、対象及び基準、臨床研究実施者等の責務、委員会等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容 申し込み手順・臨床研究保険について・適合性調査などについてなど	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を開催している。

2 研修の実績

研修医の人数	81人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北 俊弘	第一内科	准教授	28年	
稲津 東彦	消化器 (内科)	講師	29年	
石川 哲憲	循環器 (内科)	助教	23年	
佐藤 裕二	腎臓 (内科)	准教授	24年	
下田 和哉	第二内科	教授	28年	
飯干 宏俊	第三内科	助教	21年	
岡山 昭彦	膠原病感染症内科	教授	34年	
石田 康	精神科	教授	30年	
直野 慶子	精神科	講師	14年	
蛭原 功介	精神科	助教	11年	
三好 良英	精神科	助教	9年	
布井 博幸	小児感染免疫	教授	38年	
高木 純一	小児循環器	臨床教授	30年	
盛武 浩	小児血液・腫瘍	准教授	21年	
此元 隆雄	小児腎臓	助教	20年	
近藤 千博	肝胆膵 (外科)	准教授	31年	
池田 拓人	消化管 (外科)	助教	22年	
中村 都英	第二外科	教授	33年	
帖佐 悦男	整形外科	教授	30年	
天野 正宏	皮膚科	准教授	28年	
月野 浩昌	泌尿器科	講師	17年	
直井 信久	眼科	教授	35年	
川畑 隆之	耳鼻咽喉科	助教	14年	
鯨島 浩	産科婦人科	教授	33年	
長町 茂樹	放射線科	准教授	30年	
矢野 貴徳	神経放射線	講師	25年	
榮 建文	腹部放射線、救急疾患	助教	19年	
中田 博	胸部放射線	助教	18年	

楠原 和朗	放射線治療	助教	15年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	25年	
迫田 隅男	歯科口腔外科・矯正歯科	教授	40年	
落合 秀信	救命救急センター	教授	27年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

全ての職種を対象とした医療安全・感染対策講習会について、職員は年間で2度受講することを義務付けられている。また、職種ごとには専門的知識を習得するための勉強会や医療機器の取り扱いに関する講習等が実施されている。

【平成25年度実績】

- 1) 人工呼吸器取り扱いについて（ME機器センター）⇒8月～3月末 計17回 61名
- 2) 血液浄化勉強会（ME機器センター）⇒9月～12月 計4回 55名
- 3) 体外循環（人工心肺・補助循環）（ME機器センター）⇒6月～12月 計4回 46名
- 4) 除細動器（ME機器センター）⇒4月～12月 計6回 40名
- 5) ドリップアイ（新規導入機器）（ME機器センター）⇒12月 計2回 53名
- 6) 超音波ネブライザー（ME機器センター）⇒11月 計1回 8名
- 7) 第5回宮崎リハビリテーション講習会（リハビリテーション部）⇒10月 計1回 18名
- 8) 小児リハビリテーション研修会（リハビリテーション部）⇒6月 計10回 1名
- 9) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会（リハビリテーション部）
⇒5月～10月 計19回 1名
- 10) 症例報告と文献紹介（検査部）⇒4月～3月 計22回 30名
- 11) 白血球分類の解釈について（検査部）⇒3月 計1回 19名
- 12) 緊急検査時における白血球分類測定手順について（検査部）⇒3月 計6回 18名
- 13) 緊急検査装置尿定性半自動検査装置の使用法について（検査部）
⇒6月～2月 計4回 4名
- 14) 採血管準備装置BCロボ888使用法（検査部）⇒7月～2月 計2回 2名

- 15) 心電図検査法（検査部）⇒4月 計1回 2名
- 16) 肺機能検査法（検査部）⇒4月～5月 計2回 2名
- 17) 血圧脈波検査法（検査部）⇒4月 計1回 2名
- 18) 脳波検査法（検査部）⇒5月 計1回 1名
- 19) ピロリ菌検査法（尿素呼気試験）（検査部）⇒5月 計1回 1名
- 20) 負荷心電図検査法（検査部）⇒6月～7月 計2回 1名
- 21) 緊急検査生化学自動分析装置（検査部）⇒4月～3月 適宜開催 各1名
- 22) 遺伝子・感染症検査システム（検査部）⇒4月～3月 適宜開催 各1名
- 23) 緊急検査用血中アンモニア測定装置（検査部）⇒4月～3月 適宜開催 各1名
- 24) 微生物由来成分分析装置（検査部）⇒9月 計1回 5名
- 25) 精神科領域専門薬剤師養成講習会（薬剤部）⇒4月～1月 計2回 40名
- 26) 自殺対策ゲートキーパー養成講習会（薬剤部）⇒3月 計1回 70名

・研修の期間・実施回数

1つの研修は1日で終了するものが多く、1ヶ月～1年間の期間で1回～15回程度開催されている。

・研修の参加人数

研修の規模により異なり、1名～100名程度が参加している。

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

それぞれの職種の現場における研修

・研修の期間・実施回数

1週間～半年ほどの期間で、年間に1度研修を行う

・研修の参加人数

1つの職種へ1名～10名程度参加している。

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 吉原 博幸
管理担当者氏名	総務課長 大西 文昭

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		電子媒体（電子カルテ） 及び 各診療科	・原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 ・エックス線写真は電子媒体に保存
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	なし	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	第規一則 号第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	に掲条 の	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
	十 体	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	一 制	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部
	第 一	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部
	確 保	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
	各 の	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課
	号 状	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
	及 び		
	第 九		
	条 の		
	二 十		
	第 一		
	項		

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	医事課
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
	各号及び第九条の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 吉原 博幸	
閲覧担当者氏名	総務課長 大西 文昭	
閲覧の求めに応じる場所	ミーティングルーム	
閲覧の手続の概要		
・ 内部者については、権限を付与し、閲覧を制限している。 ・ 外部者については、特に定めていない。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 医療に係る安全管理の基本的考え方 2. 医療に係る安全管理体制 3. 職員研修・教育 4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策 5. 医療事故等発生時の対応 6. 患者等との情報の共有 7. 患者からの相談への対応 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 4 回
・ 活動の主な内容： 1. 医療事故防止のための具体的措置に関すること。 2. 医療安全管理マニュアルに関すること。 3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関すること。 4. 医療事故発生時の原因究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関すること。 5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関すること。 6. 医療事故発生時の家族や患者への対応に関すること。 7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関すること。 8. 医療安全管理部の業務に関すること。 9. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関すること。 10. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関すること。 11. その他医療事故等及び医療訴訟に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 3 回
・ 研修の主な内容： 1. 医療安全管理に関する講演会（6 回）（※講演会未受講者はオンデマンド視聴） 2. 各部署との勉強会（8 回） 3. 新規採用者研修（19 回）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. リスクマネージャー会での事例報告及び周知 2. 作業標準の作成 3. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し 4. 院内ラウンド 5. 部署毎の医療安全に関する改善計画と改善結果の報告 6. 事例検証会、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（3 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任（5）名 兼任（4）名	

・ 活動の主な内容： 1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という）の運営に関すること。 2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。 3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。 4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。 5. 患者からの医療に係る相談に関すること。 6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。 7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。 8. 医療安全のための教育・研修に関すること。 9. 医療安全管理マニュアルに関すること。 10. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。 11. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。 12. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に対する基本的な考え方 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年13回
・ 活動の主な内容： 1. 感染の予防に関すること。 2. 感染の情報の収集に関すること。 3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。 4. 防疫対策の確立に関すること。 5. その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年30回
・ 研修の主な内容： 1. 感染対策に関する講演会（6回）（※講演会未受講者はオンデマンド視聴） 2. 各部署との勉強会（5回） 3. 新規採用者研修（19回）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 感染対策担当者会議での報告及び周知 2. 院内ラウンド 3. 院内感染対策マニュアルの作成、見直し 4. ICT会議、感染対策委員会での対策の検討、事例報告等 5. サーベイランス 6. コンサルテーション	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
研修の主な内容： 4月 医員（研修医）対象：オリエンテーション開催 医薬品の安全について 7月 全職員対象：薬事法に準拠した医薬品安全管理に関する喫緊の課題	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (☒ 有・無) - 業務の主な内容： (1) 業務手順書に基づいて業務が実施されているかチェック表を用いて確認した。 (2) 医薬品安全管理上注意すべき情報提供を全職員に対し随時行った。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒ 有・無) - その他の改善のための方策の主な内容： (1) 業務手順書は、作成後、各部門へ一部ずつ配布した。また、手順書の周知を徹底するために院内電子カルテの「カムナビ」に掲載し、全職員が閲覧できるようにした。 (2) 業務手順書を現場の実情にあうように改訂した。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
・ 研修の主な内容： (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明 (2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処 (3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて (4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して (5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応 (7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (☒ 有・無) ・ 保守点検の主な内容： (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による、病院機能評価を平成25年1月21日から1月23日の期間で受審した。	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	